

令和5年度 西東京市立上向台小学校 第5回 学校運営協議会

令和6年1月19日

議事録

上向台小学校運営協議会（要点記録）
日時：令和6年1月19日（金）10：30～12：00 場所：上向台小学校 ランチルーム 出席：8人 学校関係者：5人 欠席：1人
委員10名中9名の出席により本会議は成立
（1）会長挨拶 校長挨拶
○挨拶要旨 会長 能登半島地震について、一番、気にかかっているのは、子どもたちがどういう生活をしているかということです。西東京市では地震発生時のマニュアルはしっかりしていて、避難所運営の準備はできていますが、能登半島では、実際に授業はいつ再開するとか、そういったところが非常に気になっていて、ニュースを注視しています。学校の先生方はもう考えていると思うのですが、地域の方々、子供たち自身も改めて震災に対する備えについて考えていくことが大事だなと思います。早く復帰してほしいと本当に思います。 校長 3学期が始まり、早1週間が経ちました。 本校では2学期末はインフルエンザが流行っていましたが、3学期はコロナがちらほら出始めております。 さて、能登半島地震が発生して半月経過いたしました。改めてお亡くなりになられた方々の御冥福をお祈りするとともに、厳しい寒さと余震が続く中で避難所での生活を送られている皆様には心からのお見舞いを申し上げます。 私からは、まず、12月号の学校便りと1月号の学校便りを御紹介します。 12月号は「全国学力・学習状況調査」の児童質問紙調査で、特に東京都と本校を比較して、差が大きかったものについて紹介しています。前回の学校運営協議会でもお示しした内容ですが、御欠席の委員の方もいらっしゃいましたので、繰り返しになるかもしれませんが、お伝えいたします。 左側を御覧ください。太字の部分で、まず「自分にはよいところがあると思いますか？」や、「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思いますか？」が東京都と比べてとても高い結果となっています。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に対しては、東京都より8.5ポイントも高い結果となっています。 御家庭などでもよい言動をほめ、認め、励まして自己肯定感を高めていただいていることに起因していると感じています。また、教員もよい行動をしっかり認めたり、話を丁寧に聞き、受け止めたりすることを常日頃から心掛けていることも、今回の結果につながっていると感じています。 右側の「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか？」、「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか？」、「5年生までに受けた授業では各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行っていましたか？」という設問も高い結果で、子どもたちが主体的に学びに向かう力が育ちつつあることなどが分かりました。 1月号の学校便りでは、箱根駅伝の青山学院大学の原監督の言葉を紹介しました。 左側の太字にあります、青学の学生は、「週3日は自分で考えた練習メニューをこなしているそうです。」 目標も練習内容も自ら考え行動することによって成長しているようで、この考え方は、本校の子ども自ら学び方を選択し、自立した学習者になることを目指した授業（学習のめあてや学習計画、学習方法を自己決定・自己選択する学び）と通ずると感じています。

右側は「目標管理ミーティング」について書きました。

青学の選手は、まず、「〇〇大会で〇秒記録」を伸ばすといったような「個人目標」を立てるそうです。

誰か他の人から言われた目標では、あまり意識が向かないからだそうです。そして、選手に個人目標を立てさせた上で、レギュラー選手だけでなく、控え選手、故障者なども交えたグループでそれぞれの目標について話し合い、他者の客観的な評価を受けることで、達成可能な目標に仕上げていくそうです。

なかなか小学校では、自分の目標について、他の人から意見をもらうということはしていないのですが、そういうことをすると、適正な目標づくりに役立つこともあるかもしれないなあと感じました。

また、学校では「キャリアパスポート」という学期ごとのめあてや振り返り等を行っているのですが、自分のめあてを考えたり、振り返ったりする子どもの姿と重なったり、それから、子供一人一人の成長や変容を丁寧に見取ったり、子供の主体的な学びに寄り添いながら伴走したりする本校の先生方の姿と重なります。

このキャリアパスポートの活用で大切なことは、教師や保護者が対話的にかかわり、一人一人の目標修正などの改善を支援することです。ルーティン的に行うのではなく、この取り組みが子どもたちが生涯学び続ける意欲等につながると思います。

3学期の始業式には目標を立てることなどの話をしましたが、なりたい自分や夢を想像し、そこに向かうことを楽しみに目標を掲げてほしい。また、私たち大人も目標をもち、共に成長し合えるといいなあと思っています。

さて、今日は、子どもたちの声の学校評価をまとめたものから、改善していくことなどについて、教務主幹、生活指導主幹、学校経営主任から話をしてもらいます。

皆さんご存じのとおり、昨年4月に「こども基本法」が施行され、行政でも子どもの意見を取り入れる取組が始まっています。

西東京市でも、現在、様々な計画を策定中ですが、私が携わっている「子ども子育て推進計画」でも、当事者の子どもの声を取り入れようとしています。

実は、本校でも、先日、次年度の「委員会」設置に向けて、子どもたちにアンケートを取っていました。内容を見ると、大人も納得するような大人顔負けの意見や、もっと学校をよくするための意見などがあり、もっと子どもたちを信じ、子どもの声を聴くことが大事だなあと思っているところです。他にも、次年度は、体育発表会の種目や、学校のきまりなどについても、子どもたちの意見を聞くということを取り入れていきたいと考えているところです。

よく子供の意見を聞くと、何でも好きなことを言い出すのではないか、自分勝手な子しか育たないのではないか、と考える人もいると思うのですが、そう思うようなことがあったらやり取りを重ね、その子が気付けるようにしていくことが、私は教職員の仕事だと思っています。

子どもたちには、自分たちの学校は自分たちの意見でよくできるということを体験させたい、こうしたことは、将来、市民として生きる力を培うことにつながっていると思っています。

現在は、次年度の教育計画を立てている真っ最中です。

ぜひ、様々な視点から御意見いただき、次年度の計画に追加できるようにしたいと思っております。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

(2)児童の学力・体力・健康等についての実態の報告

○教務・特活・研究について

今年度の学習の様子と特別活動の様子について御報告いたします。

異学年交流について、(8)の「フレンドはんかつどうなどで、ほかの学年のともだちといっしょに遊んだり、いっしょに活動したりすることは楽しいですか。」「フレンド班活動などで、下級生のことを考えたり、他の学年の友達と一緒に活動したりすることに意欲的に取り組んでいますか。」という設問において、全校児童の9割が「他学年との遊びや交流活動を楽しんでいる。」と答えています。昨年度までは、新型コロナウイルスの影響で、活動を制限されることがありましたが、今年度は、その制限も無くなり、異学年交流の機会が増えました。ただ、何度かインフルエンザが流行り、延期したことはありました。

異学年交流の一つとして、たてわり班活動を行っています。たてわり班活動では、6年生が遊びを考え、1年生から6年生までと一緒に楽しく遊びを行っています。

例えば、教室ですと、ハンカチ落としやフルーツバスケット、校庭では鬼ごっこやドッジボールなどをして元気に遊ぶ姿が見られています。

4月当初には6年生が入学したばかりの1年生の教室へ行き、朝の支度を手伝ったり、紙芝居、絵本の読み聞かせなどを行ったりするという活動も行いました。

そして、委員会活動では、5、6年生が学校をよりよくするための活動をすすんで行っています。特に、給食委員会の児童は年間を通して、1年生の教室に入り、給食準備のお手伝いをしています。

また、生き物の引き継ぎを通した異学年交流も行われています。

2年生がカメを飼育しています。カメのお世話はそれまで世話をしていた新3年生が新2年生に世話の仕方を引き継いでいます。

4年生は烏骨鶏の飼育をしており、新5年生が新4年生にそのお世話の仕方を引き継いでいます。どの学年の子供たちも、上級生が行っていった生き物のお世話をすることに意欲的ですし、今まで生き物のお世話をしていた上級生も下級生の姿を優しく見守っております。

地域との関わりについて、(9)の「ちいきの人やちいきのもの、ちいきのこととのかかわりをとおして、学ぶことは楽しいですか。」「地域の人や地域のもの、地域のことから課題を見つけ、解決に向けて取り組むことは楽しいですか。」という設問において、全校児童の7割以上が「地域の『人・もの・こと』と関わって学習することが楽しい」と答えています。

今年度も学校運営協議会でいつも話題となっております、2年生の「なかよし農園」での学習では、野菜の収穫やたくあんづくりを通して貴重な体験をすることができました。

5年生では今年も稲のお世話の仕方を教えていただき、無事に収穫まですることができました。

また、3年生では、小金井公園職員の方々や桜守の会の方々の公園を維持管理する活動を知り、実際に一緒に作業体験をさせてもらうことを通して地域とのつながりを深めるとともに、地域への愛着を深めています。

1年生では、小金井公園「樹木の会」の方々との交流を行い、公園内に落ちている「葉」や「木の実」を集めて、その名前を教えていただく活動を通して、自然環境を知るとともに地域への愛着を深める事ができました。

今年度は、カリキュラム・マネジメント委員会を立ち上げ、まずは生活・総合的な学習の時間について、ふるさと探究学習として適切か、地域の学習材を生かしているか、などの観点から見直しを行いました。

そして、現在、各学年でその生活科や総合的な学習の時間を核に、各教科の指導内容や配列等を見直したり、上向台小学校独自の内容を追加訂正したりしているところです。

次年度も今年度の成果を生かして、学校や地域の教育資源を活用し、地域の方々の協力も得ながら、教育課程を軸に学校の教育活動の質の向上を図ってまいります。

○生活指導について

人権教育

アンケートの結果、97%の児童が肯定的な回答をしています。

本校で、この3年間取り組んできた、児童一人一人を大切にする取組の結果と考えています。教師が児童に対して「さん」付けをする、児童の話を丁寧に聞く、児童の頑張りが良い行動は褒める、良くない行動は冷静に心を込めて指導する、など西東京市の子ども条例を基にした指導が教職員の間に実を結んでいます。これからも、児童の人権を大切にした「一人一人の子どもが主語になる学校」を意識して、取り組んでまいります。

挨拶について

アンケートにおいて87%の児童が肯定的な回答をしています。学校での主な取組としては、日常の指導もそうですが、年間を通した挨拶運動を行っています。全学年が輪番で登校時間に正門と南門の前に立って大きな声で挨拶をしています。今後も、児童自ら挨拶ができるよう指導を続けていきます。

次年度について

引渡し訓練や不登校対応も次年度は変化があります。

引渡し訓練に関しては、避難所運営協議会で体験したことを基に実施方法を変更しました。なるべく本当に起こったことを想定してメールを送った後に、お迎えに来てもらうことや校庭に避難した後に教室に戻り、引き取りを行います。

不登校対応についてですが、校内別室指導支援員を申し込みましたので、不登校対応の別室指導ができるかもしれません。

いじめ防止について

いじめ防止に関しては、以前お話した本校の「学校いじめ防止基本方針」に則って対応しています。

いじめ防止について、アンケート項目では94%の児童が肯定的な回答をしています。

○運動について

アンケートの結果、体育の学習に楽しく取り組み、すすんで運動していますか」という問いに対して、92%の児童が肯定的な回答をしています。児童が、体育の学習を楽しみにし、意欲的に取り組んでいることがうかがえます。

課題としましては、「2年生以降は、学年が上がるにつれて肯定的な評価が少しずつ下がってきていること」です。児童の成長に伴い、運動の得意不得意がはっきりしてくること、自分の思うように運動できないことに対する苦手意識が原因ではないかと考えられます。

苦手な児童も前向きな気持ちで運動に取り組めるよう、児童の技能面だけでなく、意欲面、思考面など一人一人を丁寧に見取り、その良さを認め、励ます指導を心掛けていきます。

体育的行事につきましては、今年度、ランニング旬間やランニングデイ、縄跳び旬間について、学習指導要領の内容に基づいた見直しを行いました。

ランニングの取り組みでは、ねらいに「無理のない速さで楽しみながら気持ちよく走るかけ足や持久走を行い、豊かなスポーツライフを実現するための意欲をもたせること」を加え、順位やタイムではなく、楽しみながら気持ちよく走ることに重点を置いて取り組みました。

縄跳びでは、ねらいに「皆で運動したり技に取り組んだりする楽しさを感じられるようにし、生涯スポーツへの意欲を喚起する」を付け加え、昨年までの「体力や技術の向上」だけでなく、生涯スポーツへの意欲につながる取り組みを目指して計画しました。

振り返りカードについても見直しを行い、どの技が何回で来たかではなく、自分のめあてを明確にし、めあてに沿った振り返りができるカードを作成しました。

さらに、昨年度まで休み時間に実施していたランニングや縄跳びの活動を朝学習の時間に移し、児童の休み時間の運動機会を確保しました。

次年度に向けての取り組みとしましては、水泳や水遊びに関しても、学習指導要領の内容に応じて、「水泳指導の参考資料」を新たに作成しています。

また、技能面の向上を図るために、ボール投げやタグラグビー、走り方の指導など、地域の大学生や高校生、体育協会など専門的な知識のある方に御指導いただける機会を増やしていきたいと考えています。

(3)質疑応答

委員

一人一台端末を子どもたち全体が使いこなせているのか、使いこなせるような状況になりつつあるのかということが気になりました。

体力向上について、縄跳びが効果的です。三歳児でも長縄ができるようになります。無理にやらせるということではなく、主体的に、自分から取り組める、冬場の運動には非常に適しています。

いじめで一番陰湿なのは無視です。学校の帰り道でいじめをしていれば、目に見えるので、地域の人に関わりをもてるのですが、無視をしているとか仲間はずれにされているとか、そういうものは目に見えません。これは子どもだけじゃなくて大人の世界でもものすごくあることじゃないかなと思います。

校長

端末については、1年生でも使いこなせています。今まで、どの学年で、どの力を身に付けさせるのが明確ではありませんでしたので、今年度は研究主任に、情報活用能力の系統表を作らせるように指示をしています。

委員

I T化に向けた授業、プログラミングに関する授業をやっているのでしょうか。

校長

学習指導要領に入っているプログラミングに関する内容については、指導しています。

委員

I T業界にいる人間からすると、プログラミングの授業は必要ないです。ビジネスで必要なのは、マイクロソフトのオフィスでいろいろなものを作れるというのが必要です。プログラムはごく一部のことで、使わなければ、一生使いません。パワーポイントを使ってプレゼンをする力の方が必要です。

校長

プログラミングは、学習指導要領上でも指導すべき事項となっております。また、プログラミングは情報活用能力の一部として位置付けられています。

御指摘のドキュメントやスプレッドシート、スライドを使うことも情報活用能力に位置付けています。高学年の方になればなるほど、その比重が多くなっています。1、2年生の方はどちらかというと写真を撮るなど、基本的な操作が多くなっています。また、情報モラルなども、情報活用能力の一部となっています。

委員

今、ネットリテラシーをしっかりと教えられる人がいません。有害サイト、詐欺サイトを踏んでしまうことがあります。ウィルスに感染するリスクもあります。

現在の端末には、フィルタリングがしっかりかかっていないので、その対応を市教委が考えるべきです。フィルタリングがしっかりかかっていれば、有害な動画は見られないはずですが、何でも見られる状態です。子どもの環境としては、よくありません。情報収集に活用するには役立ちますが、まず初めにネットをしっかりと使うことを教える必要があります

フィルタリングが十分ではないので、セキュリティリスクがかなり高くなっています。市の教育委員会では対策を考えるべきだと思います。フィルタリングをしっかりとやらないと、どこかの学校で情報が抜かれるというケースが出てくると思います。早い段階で何か、制限かけるとかの対応が必要です。

生活指導主任

ネット検索する場合の言葉にはフィルタリングがかかっていて、検索しても見られないようにはなっています。

委員

ネット検索をして、いろいろなサイトでの情報収集というのは良いと思いますが、正直、小学生でまだ早いと思います。むしろ、ネットをしっかりと使えるというところをやらないといけないと思います。

校長

子どもたちの学習の基盤となる情報活用能力の中には、情報モラルも位置付けられています。情報モラルやリテラシーに関して、各学年で何を指導するかということもきちんと計画していかなくてはいけません。

委員

親も情報モラルについて学ぶ必要があります。

校長

文部科学省の考え方では、端末の持ち帰りなど、家庭学習も含めて端末の積極的使用を推進しています。端末を鉛筆やノートと同じように文房具として日常的に自由に使える中で、どのように子供たちに力を付けさせていくかということが求められています。

そのため、YouTubeを規制するとかそういう方向ではありません。国の考え方としても、いろいろな情報がある中で、情報を取捨選択する力など、情報モラルも含めた情報活用能力の育成が求められています。

子どもたちは家に帰ったらインターネットを使ってしまうので、学校だけで禁止している、学校の端末だけで禁止することに意味がないと考えています。

生活指導主任

いじめについて、年3回、いじめアンケートを実施しています。

認知したいじめの90%は担任への訴えで、分かっています。家庭でのLINEなど、見えない部分、見える分はあります。学校としてできることを考えた時には、やはり、アンケートを定期的にとることではないかと思います。年に3回ほどアンケートを実施し、聞き取りと面談をしています。

子どもにとって、担任は相談しやすい存在だと思います。先ほどの調査でもそうですが、90パーセント以上は担任には相談をしています。そこでいじめが見つかっているという事実があります。一方、誰にも相談できないという子が2%ぐらいいましたが、あとは担任以外だったり、養護教諭などに相談しています。つまり子どもに関わる人が増えれば、子どもが相談する相手を選べると思います。この人には言いにくいけれど、この人には言えるなどかということがあると思います。

経営支援主任

高学年になると更にいじめが見えにくくなります。例えば、掃除の時間にその子の机を何気なく運ばないとか、給食をもらうときにその子を避けるという様なことがあります。いじめを見逃さないためには、視点を決めて見ていかないと、見付けられないこともあるので、注意が必要です。

委員

子どもの運動離れが多いですが、各学校の体育の授業を通してスポーツの大切さを理解してほしいです。

上向台小学校はタグラグビー大会やマラソン大会にも出ています。これからも出ていただきたい。

委員

上向台小学校には交通ボランティアの方が多くいるのでありがたいです。挨拶をする子も増えてきていると思います。

委員

いじめについて、担任に相談している子が多いというのが良いと思います。また、子どもにとって話を聞いてもらえる、対応してもらえるというのが、大切だと思います。

委員

いじめの報告について、学年に応じて指導の仕方を考えていく必要があるのかなと思いました。

地域との関わりについて、地域のイベントが圧倒的に減ったのかなと思っています。子どもたちの意見に結構鋭いものがあるので、それを基に、こういうことをやってみたらいいんじゃないかっていうことを地域でできたらいいのかなと思います。

委員

地域との関わりについて、低学年は公園に行くなど、地域の方と関わる活動が結構たくさんありますが、上がるにつれてなくなっていきます。

高学年の授業のカリキュラムの中に、地域と一緒に何かできることを見付けていく必要があると思います。それがなければ、「課題を見付けて解決に取り込むことは楽しいですか」という設問に対して、どうしても肯定的な回答が減ってしまうのではないかなという感じがあります。

朝、南門に立っていると、挨拶をしてくれる子が増えました。また、自転車に乗っているサラリーマンで子どもの肌に触れるぐらいの距離で走って行く人がいたので注意が必要です。

タブレットに関して。導入するときには、タブレットに教科書が入ったり、宿題ができるようになったりとか、学習自体をタブレットで全部賄えるようになります、ということで始まったはずなのに、家庭での学習では使っているのでしょうか。

保護者が、子どもたちがタブレットを使って何をしているのかあまり分かっていないように感じます。もう少し見えるような形にしてもらえると良いと思います。昨年度の卒業生で、クラスのLINEグループや学年のLINEグループ、ある特定の子を除いたLINEグループなどがありました。LINEの使い方については、保護者の協力が必要だと思います。

校長

デジタル教科書について、今年度は高学年では英語と算数が入っています。

タブレット端末について、クラスルームで翌日の予定などを、配信していたりする学級も多いので、親御さんも一緒に端末が見られるように工夫をしています。

SNSについては、全校朝会で、情報モラルやグループの作り方などについても話しています。

委員

自分を肯定するということについて、東京都より肯定的な意見が高かったというのはすごくいい部分だなと思いました。先生方が子どもたちを認めてくれているということも、すごく素晴らしいことなので、本当にありがたいことだと思います。

主体的に学ぶということについて、最初からこうしようというのではなく、自分で考えて行動をするということが、大人になってからも必要なスキルだと思います。そういった取り組みは本当にどんどん続けていっていただきたいなと思っています。主体的に学ぶ、子どもの意思を大切にしている上向台小学校の取り組み方が良いと思いました。

(4)事務連絡

第6回 学校運営協議会 日時 令和6年 3月 8日(金) 10:30～12:00